

平成27年度 第6回 国立大学法人鹿屋体育大学経営協議会 議事要旨

1. 日 時 平成28年3月18日（金） 14時45分～16時15分
2. 場 所 ホテル京セラ本館13階 オアシス・エルドラド
3. 出席者 〔学内委員〕福永、川西、中禮、原田の各委員
〔学外委員〕上治、岡崎、小舘、佐々木、宮嶋の各委員
4. 列席者 金久副学長、緒方監事、岩重監事、荻田、瓜田、森（司）の各学長補佐、向井企画調整役、事務局各課・室長

5. 内 容

（質疑の○は学外委員の発言を、●は学内委員及び学内者の発言を示す。以下同じ）

議事に先立ち、事務局から会議のスケジュール及び配付資料の確認が行われた。

1) 前回議事要旨確認

平成27年度第4回及び第5回経営協議会の議事要旨（案）について確定された。（資料1）

2) 審議事項

(1) 平成28年度国立大学法人鹿屋体育大学年度計画について（資料2）

事務局（企画調整役）から配付資料に基づき、平成28年度国立大学法人鹿屋体育大学年度計画（案）について説明があり、審議の結果、原案のとおり了承された。

(2) 平成28年度国立大学法人鹿屋体育大学予算案について（資料3）

事務局（企画調整役）から配付資料に基づき、平成28年度予算案について①財政規模が約18億8千万円となること、②第3期中期目標・中期計画を着実に実施するための予算配分としたこと、③経営戦略に基づく重点プロジェクト事業経費に重点的に財源措置すること、④予備費を設定したことについて説明があり、審議の結果、原案のとおり了承された。

○ 運営費交付金の収入が今年度に比べて増えている要因は何か。

● 今回、運営費交付金の算定方法の組換えがあり、補助金等で措置されていたものが運営費交付金に組み込まれたため、その分が増額となっている。

3) 報告事項

(1) 平成27年度資金運用の現況について（資料4）

事務局（企画調整役）から配付資料に基づき、平成27年度資金運用について、平成28年3月1日現在の運用益が487,755円である旨報告があった。

4) 学内外の諸情勢について

(1) 平成28年度鹿屋体育大学入試状況について（資料5）

川西委員から配付資料に基づき、平成28年度入学分の本学体育学部及び大学院体育学研究科入試の実施状況について報告があった。

- 武道課程を設けるメリットは何か。
- 本学の設立時に強い意向があった。剣道は九州が強く、鹿児島県出身者も多く入学している。一方柔道は強い学生を各大学で取り合っているので、それを本学でとるためにはかなりの魅力がなければできない。
- 受験生の志望動機として、「国立で唯一の体育大学」は挙げられているか。もしそれを挙げる受験生が少ないのであれば、受験生にとってのメリットではないということであるから、他のフレーズなりを検討する必要があるのではないか。
- 以前は多く挙げられていたが、「国立で唯一」は、既に認知されていることなので、個人的には必要性を感じない。むしろ鹿屋でしかできないことを作らないと、学生も鹿屋まで行きたいと思わないし、親も投資しない。
- 授業料免除や奨学金給付の制度はどうなっているか。授業料だけでなく、生活費についても支援できると良いと考える。
- 授業料免除制度はある。しかし、入学料が納付できず、入学を辞退するというケースがあったので、柔軟に対応できるようにしたい。
- 就職先が確保されれば、受験生や入学者も確保できると考える。
- 就職率は良く、卒業生も各地で頑張っている。最近の学生の就職状況等を分析してキャリア支援、就職支援を充実させたい。
- 武道課程について、「鹿屋体育大学の武道課程を卒業した人は何か違う」と示すことが重要である。例えば、世界基準の技術と理論を身につけているとか、日本の武道を世界に広める人材を輩出するといった特徴付けができるようになると、鹿屋体育大学で武道課程を行う意味があるのではないか。

(2) 学生の競技成績について（平成27年11月～平成28年3月）（資料6）

瓜田学長補佐から配付資料に基づき、平成27年11月から平成28年3月までの本学学生の競技成績について、報告があった。

(3) 平成28年度強化指定競技及び重点強化指定選手・チームの選考について（資料7）

瓜田学長補佐から配付資料に基づき、平成28年度強化指定競技及び重点強化指定選手・チームについて報告があった。

(4) 平成27年度授業料特別免除等の実施状況について（資料8）

森学長補佐から配付資料に基づき、平成27年度授業料特別免除等の実施状況について報告があった。

5) その他

(1) 事務組織再編成（H28. 4. 1）について（資料9）

事務局（企画調整役）から、平成28年4月1日付で事務組織を再編成することについて説明があった。

(2) 平成28年度の経営協議会開催日程について（資料10）

事務局から、平成28年度の経営協議会開催日程について説明があった。

(3) 意見交換

時間まで意見交換がなされた。内容は以下のとおり。

● 「国立で唯一の体育大学」の意義について、ご意見を伺いたい。

- 一時期、大学で体育の授業を行う必要はないとの議論があったが、理論を踏まえて体育を学ぶ必要があることから重要だと考える。体育というのは競技結果を出すことが注目されがちであるが、理論に基づいて日々のトレーニングを行う等、学問としての位置付けがきちんとできてきている。
- 欧米では、スポーツ経験者の自己マネジメント能力、タイムマネジメント能力等の有用性が注目されている。スポーツでトップになることは素晴らしい自己マネジメント能力を持っているということだが、あまり知られていない。そこを上手くアピールするのも一つの手である。
- 日本体育協会では創立100周年時に「スポーツ宣言日本」を発表した。スポーツは人間にとって素晴らしい文化であることに加えて21世紀の社会をより良くする役割がある。スポーツの推進を通して地域活性化、環境保護、国際平和等へのアプローチを図りなさいというのが宣言の趣旨である。スポーツの意義と価値を、社会の変化とともに捉え直していくことが重要で、その論理的な構築や研究を事業推進の材料として民間スポーツ団体に与えるのは大学しかない。そのノウハウを得て、民間スポーツ団体が事業を推進し、その研究成果が学生の教育や社会に役立つという好循環を大学が作っていく必要がある。大学で体育やスポーツを存続させる意義は今後ますます増えていく。
- 野球賭博やドーピングの問題はスポーツにおいて技術だけしか教えられなかった結果であると考え。人間がスポーツをする意義や効果を教育する必要がある。それが大学の役割である。
- 4年後に東京オリンピックというチャンスがあるので、オリンピックだけでなく、それを支える人を多く輩出することでも存在感を示せる。カリキュラムの中にそういったプログラムを加えるだけでも大きな特色を出せると考える。

● 国立大学と私立大学の違いは何か。

- 国立大学では研究に使える時間が多い分、科学技術を推進し、成果を上げる責任が大きい。一方で私立大学は経費の使い方の縛りが少ないので、教育の自由度が大きく、幅広い分野の人

材を育成することができると考えている。

- クラウドファン্ডという仕組みがある。大学だけでは難しいと思うが、NPO 法人等と協力すれば、明確な目標を持った優秀な学生の支援ができる。
- 外部から見ると、勤務体系が変化したり自己収入の増加を求められたり、国立大学の私立大学化が進んでいるように見える。
- 私立大学はマーケティングを主体とした学校経営を行っている。新規の大学でもメディアの露出が多ければ受験生も集まるし、就職率も良くなる。そういった存在感を生むマーケティングができないか。鹿屋体育大学が持っているコンテンツをもっと分析すれば、課題に対する解決策が見つかるのではないか。
- 自転車競技部が活躍しているが、世間に知られていないことを残念に思う。世界的な強さから考えると難しいかもしれないが、国際大会の前後にサテライトキャンパスを使って記者会見する等、アピールする方法はあるのではないか。

- 学内の先生方にも意見を伺いたい。
- 大学に体育が必要かについては、大学教員が体育を学問として教えられるかが一つの問題である。筑波大学との共同専攻で、体育スポーツ学という学位のコースを用意したことで体育やスポーツが学問かという問に対して、答えを出す場を作れたと思っている。
- 社会が健康に目を向けた結果、社会体育スポーツ養成校として本学が設立された。学問・実践としての体育をいかに社会にアピールできるかということを本学でやっていかなければならない。
- 学問の複合性の中での体育の在り方が問われている。加えて産業界と上手く重なりを持つ必要があると感じる。

学生、保護者の両者にとって経済的負担の少なさが国立大学の魅力であると実感している。

- 体が心を育むという意味で体育の必要性は十分にあると考えている。
私立大学は各大学で進むべき方向を決定しているが、国立大学は、国の立場で体や心を育む教育を先導し、社会に浸透させていくことが使命である。
- 国立体育大学の存在意義として指導者養成が挙げられる。小中高は学校体育と保健を教え、大学ではその指導方法で良いのか理論的に証明する形で研究できる。生涯スポーツになるとスポーツが健康に対してどういった影響を与えるかを理論的に指導するという点で意義がある。同時に人間形成という意味でも大学における体育教育は必要だと考える。
- 競技能力を高めるだけでなく、スポーツのことを勉強して修士や博士を目指す人や研究者になりたい人のための制度や課程を設けても良いのではないかと考えている。
- PROG テストの結果では、他の国公立大学に比べて一般常識や知識といったリテラシー能力は低いが、対人能力、問題解決能力といったコンピテンシー能力は高くなっている。コンピテンシー能力はスポーツ総合課程より武道課程で高い。それが良いか悪いかは別として、スポーツを通して疑似社会体験できている。

国立大学として国やスポーツ庁と密接な連携をとるべきである。国家的なミッションを率先して国立大学にやらせるべきだと考える。そういった繋がりがないと国立大学である意味がな

いと考える。

- 英語、コミュニケーション能力といった点からのアプローチも必要となってくる。

以上